

【平成23年6月 身元確認作業支援部隊 男性警察官（41歳）】

### 「震災出動体験」



私は、5月12日から5月23日までの12日間、身元確認作業支援部隊として、岩手県釜石市へ出動しました。

釜石市は、津波により壊滅的な被害を受けた大槌町の隣に位置し、釜石市自体も甚大な被害を受けておりました。海岸線の瓦礫の荒野にポツンと建つ4階建ての集合住宅。その3階までが津波により破壊され、周囲には家が建っていたであろう、コンクリートの土台だけが並んでいました。海から離れた商店街も津波に破壊され、ただの空箱の

ような状態になっていました。

テレビでよく見た映像でしたが、実際に目の当たりにすると、恐ろしさと悲しさが一気に押し寄せ、思わず泣きそうになりました。

釜石市での私の任務は、紀州造林と名付けられた遺体安置所で、ご遺体の身元を判明させるべく、ご遺族からDNA資料を採取するというものでした。

安置所には100体近く的身元不明死体が入った棺桶が並んでいました。震災から2ヶ月が経っており、海中や瓦礫の下から発見されるご遺体は既に身元確認が困難な状況となっており、ご遺体を家族の下に帰す残された手段はDNA鑑定しかありませんでした。

遺体安置所には、身元不明死体の特徴を掲載した掲示板、所持品等の写真を掲載したファイルが備え付けられており、毎日のように大勢のご遺族が家族を探しに訪れました。そのご遺族から話を聞き、DNAの資料を集め、ご遺体から採取したDNAと照合させるのです。

しかし、行方不明者本人の資料、例えば「ヘソの緒」「本人が使用していたひげ剃り」等は、家と共に津波に流され残っていません。あとは親子鑑定です。しかし、家族が行方不明の方も多く、まともに親子鑑定の条件がそろっている人は少ない状況でした。ただし、日本赤十字社が保存している血液のサンプルが提供されることとなり、献血したことがある方については、そのDNA型に合致するご遺体的那个人ということになります。家族が行方不明で親子鑑定が出来なかった人でも、献血により行方不明者本人のDNA型が判明し、家系図の穴を埋めることができれば、残りのご遺族から口腔内細胞を採取し、親子鑑定をすることで、さらに多くの身元不明だったご遺体を探すことが可能になるのです。

今回の出動では、お爺さん、お婆さん、赤ちゃん等、280人から口腔内細胞を取りました。その中にはいくつもの涙を見ました。時にはイライラをぶつけられることもありました。でも、たくさん、たくさんの感謝もされました。この経験は、私にとって意味あるものとなったことは間違いありません。

こんな業務に携わった私に出来たことは微々たるものですが、1人でも多くの方の身元が判明し、ご家族の下に帰れることを願っております。